

# 余野川ダムについて

## 住民対話討論会

平成 16 年 1 月 25 日

発 言 者

氏名	山本 博史	住所	大阪府池田市	年齢	52
----	-------	----	--------	----	----

余野川ダムが何故必要か？！

増水による被害

- ・以前、ここ伏尾台の北東側の崖の下を流れている余野川では、突然の鉄砲水により増水し激流が発生しました。対岸で遊んでいた家族が取り残されて警察署や消防署の救急隊が救出するというハプニングがありました。そのときは、報道関係等のヘリコプターが5機もうるさいエンジン音をとどろかせて飛び回るといった事態が起きました。
- ・増水による激流の恐ろしさを見た事は他にも2回ほど経験しています。余野川に架かっている吉田橋と中川原橋が川の水に押し流されるのではないのかと思われる位の強い勢いの流れを見ました。
- ・これで、強い台風にでもかき回されていたらきっと氾濫していたと思います。

ダムの必要性

- ・ダムを建設して、河川が増水して起きるであろう氾濫やもしもの浸水被害を食い止め予防する流量調節が必要だと考えられます。
- ・ダムの建設は、ただダムを建設するだけにとどまらない。生活や産業に必要で便利な道路建設が行われるのです。鉄砲水に見舞われた、余野川ではこの川沿いの道路が狭くてくねくねと鋭く曲がっている道路では、大型のタンクローリー車が脱輪横転して積載していたオイルが川に流れ込むという事件がありました。そのときは、古江の浄水池近辺の猪名川との合流地では職員さんが大出でオイルフェンスを設置して猪名川本流を汚さないように作業するという大騒動が起きています。このような対策を講じるため、曲がりくねった道路をダム建設と並行してすっきりとした走り良い道路にすることが出来ると聞いています。

自然との共存

- ・種の保存とよく言いますが、巨大な面という大自然の中で線や点ほどのダムや道路を人間の生活や産業のために、設置したことによって大きな影響が出るでしょうか。鳥は移動できます。昆虫たちも移動できるでしょう。きっと、生物達とは共存できるはずですよ。

池田市 山本博史

PS.「余野川が増水している様子を撮影した写真がありますので、会議開催の当日持参いたしたいと思います。」

氏名	高田 直俊	住所	大阪府池田市	年齢	
<p>いまだに建設されないダムや中止されたダムは、時間とともに必要性が薄くなったことを物語る。水需要が満たされたことや、河川整備が進んで水害の危険性が軽減され、また過去に乱伐した森林が回復して流出量ピークが低下したことなどの社会・自然環境の変化は、時のアセスの重要性を示している。またダムだけで水害が防げるものではなく、河川改修を平行せねばならない。特に超過確率洪水に対して、ダムの建設に関わらず、溢水しても壊れない堤防への強化は必須である。同時にダムの高額な建設費と大きな自然環境破壊のデメリットに対する慎重な検討が必要である。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 猪名川合流点までの余野川は、掘込み河道形態であり、溢れても深刻な水害にはなりにくい。また疎通容量の低いところは、拡幅や河床掘削で対応できるので、治水面では深刻な問題はない。このことは、一庫ダムの治水容量を増して、その利水容量を余野川ダムに振り替えよう（治水容量を減らして）という、国交省の意向からも明らかである。</li> <li>2. 猪名川の疎通容量が低いところは絹延橋から右岸約 300m 上流区間（川西市小戸）であるが、現在、河道拡幅と堤防建設が進められており、猪名川河川事務所によると約 3 年で改修が終わる。多田地区は銀橋狭窄部によってせき上げられた洪水が堤防から溢れる地域であるが、上記の改修が終われば、銀橋直下の岩盤掘削が可能ならず（それまでは多田地区は遊水地として扱われてることになる）これで浸水は解消される。</li> <li>3. 一庫ダムは洪水時の放水量を 650 立米/秒として計画されているが、下流部の疎通能力不足を理由に、150 立米/秒に運用を変えている。ダムを造るときは、「ダムによって水害解消」を謳ったはずであるが、想定している計画降雨の場合は早く満杯になるので、そのあとは「無制御状態」になることを猪名川工事事務所のパンフレットで公言している。これも上記の河川改修で解消されるはずであるが、「堤防は計画通りの形に出来ているが、脆弱なため洪水流を流せない。目下堤防強化のための調査を行っている」と云う。しかし、昔の堤防ほどに質が劣るとは思えず、発言の真意が不明である。</li> <li>4. 利水を主体としてこの計画が始められたと考えられるが、予定水利権者は、全て撤退しているので、ダム建設の必要性はすでに失われている。また、猪名川の基本高水流量が過大であることから、ダムなしで、低コストかつ環境負荷の低い河道改修で治水は十分と考えられる。</li> <li>5. 余野川ダムの効果として、銀橋狭窄部上流の多田地区の氾濫に対して、現状では 630 億円の水害想定被害額が、ダムによって 290 億円に減るといふ。また、下流部に対しては、現状で 1 兆 9975 億円の想定被害が、1 兆 6334 億円に軽減される云うが、この算定は浸水の恐れのある地域全体の同時浸水を設定した算出額で、どこかが破堤すれば、対岸地区や下流域は水害を免れるという常識を欠いた推定値である。</li> <li>6. なお、このダム湖へは出水時の流れを導入し、平時の流入はほとんどないので、水の交換頻度が低く（出水時の落葉落枝、かつ周囲に建設される「水と緑」の町の表流水をも取り込むので）水質悪化が強く懸念される。ダム湖の流域には、かつて豊能町ときわ台の水源として作った小型のダムが放棄されているが、そこに低水位で溜まっている水の水質はよくない。</li> <li>7. 以上の観点から、高額で環境負荷の大きい余野川ダムの建設をやめて、堤防強化などの河川整備、調整池等の流出抑制策に赤字財政からの資金を回すべきである。</li> </ol>					

氏名	栄木 正治	住所	兵庫県川西市	年齢	60
<p>(各代替案の河川法適用性と検討精度) について</p> <p>今後検討の各代替案は、河川法に指定された各規準に基づいて、現実的なものに限定していただきたい。(現状で各規準の適用しがたい“緑のダム;山地土壌形成に1千年がかかったとする-意見有り”などの一部の案はこれ以上の検討を無効と考えます)</p> <p>(河川整備計画の策定は、河川法に基づくものであることの確認) について</p> <p>「社会的合意について」、は河川法第16条の2の条文からは「得なさい」ということが規定されていませんから、得られない事態にこだわらないでください。</p> <p>昔から、次ぎのような相容れない対立があつて、社会的合意の得られない事態もあるもので、ある程度関係者意見を聞けば、河川法第16条の2の規定により、河川管理者の判断により実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・治水面での、左右岸や上下流の年次的などの整備水準の差</li> <li>・利水面での、各利水者間の渇水時の水争い(近年は争い程度は低い)</li> <li>・環境面での、高水敷の有り方(公園利用VS自然状態)、その他</li> <li>・治水の安全性をそこなう形式の取水堰、橋脚などの設置、環境をそこなう汚水の排出</li> </ul> <p>なお、同条文では、“当該河川の総合的な管理が確保できるように定めること”との規定からも、多田盆地への治水対策が下流部とも勘案された最善の内容で配慮されており、的確と考えます。</p> <p>(急激な高齢化率の高進と河川整備計画の有り方) について</p> <p>将来、高齢化率が著しく高進し社会弱者の増大が強く懸念されています。河川整備に関しても、次ぎのようなことが強く懸念されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大洪水による破堤・浸水での氾濫への“自分で守る”の避難力の急減者”の増大</li> <li>・時間給水となるような渇水での対応困難者の増大(特に高層部居住者)</li> </ul> <p>(これらの事態について、「現時点」と「20~30年先以降」の状況比較を議論願います。)</p> <p>20~30年先は、高齢化率が現状の2~3倍と想定されており、このため、実効性が高く早期に対応できる基礎原案が実態的に得策で、一年でも早く検討し実施していただきたい。</p> <p>(余野川ダムの環境影響評価) について</p> <p>既に、規定に従い実施されており、その結果による対策を実行されればよいはずで、あらたなご意見に対応すべき法的根拠が理解できません。(新河川法でも求めています)</p> <p>ダムに限りません。ごみ処理場や危険物貯蔵所・車の排ガス走行などもやむおえない“副作用”には、その時点の規定で求められる影響軽減対策を実施していることと同様です。</p> <p>(既往最大洪水への誤解と整備規模) について</p> <p>猪名川の既往最大洪水は、昭和13年7月阪神大水害で、昭和35年8月に記録された最大一日降雨ではないはずで、流域委員会ですら“降雨量最大=洪水量最大と見なされたい”誤解があります。この誤解を改めていただき次ぎの機会の意見聴取としてください。</p> <p>整備規模について、東海豪雨の原因説も有る地球温暖化は、その影響把握は困難でしょうが、次ぎの将来に向けて引きつずきお願いします。</p>					

氏名	千代延 明憲	住所	大阪府吹田市	年齢	62
----	--------	----	--------	----	----

余野川ダム建設よりも下流部の堤防強化を

吹田市 千代延 明憲

余野川ダム事業に強い関心を持つ者の一人として、建設の是非について意見を述べさせていただきます。

余野川ダムの1つの目的である利水であるが、阪神水道(9万立方メートル/日)、箕面市(1万立方メートル/日)の利水撤退が現実のものとなってきた今、余野川ダムに対する水需要はなくなっている。

この新たな事態に直面し、河川管理者は一庫ダムの利水容量の一部(約0.4立方メートル/秒(約3.5万立方メートル/日))を余野川ダムに振り替えて、一庫ダムの治水能力を高めることに計画変更を企てている。

しかし、(約0.4立方メートル/秒)の需要先であると考えられる池田市と豊能町には、大阪府営水道からの給水準備が設備面でほとんど完了しており、この点からしても余野川ダムへの利水需要はない。

残るは、下流部の浸水被害軽減のためという治水目的で、余野川ダムの建設が必要かという点である。

下流部の浸水被害軽減には次の3つの選択肢が考えられる。

- 1) 治水目的だけの余野川ダム建設
- 2) 下流部の破堤回避のための堤防強化
- 3) 1)と2)の両方を実施

結論から先に云えば、私の選択は2)である。理由は次の通りである。

淀川水系流域委員会も平成15年12月の意見書の中で述べているように、「一庫ダムの治水機能強化」により、多田地区の浸水被害はある程度緩和されるものの、一庫ダムは猪名川の支川一庫大路次川に設置されており、ダムの集水面積とほぼ同じ面積をもつ集水域外から流出する流量への抑制機能はなく、抜本的解決とはならないと思われる。

従って、早晚銀橋狭窄部の開削が実施計画にあがると考えられる。何故なら銀橋狭窄部の開削は、桂川の保津峡や木津川の岩倉峡と大きく違い、開削工事は簡単かつ安価で済み、多田地区の浸水被害軽減効果は極めて高いからである。

そうなれば、当然のことながら下流部では破堤しない程度の堤防強化は実施せざるをえなくなる。

すなわち、近く治水目的のみの余野川ダムを建設したとしても、下流部の堤防強化は早晚実施することになる。それなら、1)、2)の両施策を実施するかということだが、それはすべきでない。環境保全並びに限られた財源ということからして、また淀川水系流域委員会のいう「破堤による甚大な被害の回避・軽減」は達成できることからしても、結論は2)ということになる。私は、余野川ダムは全体予算のある程度をすでにつかっていたとしても、残る財源はすみやかに下流部の堤防強化に当てるという考えに立って、余野川ダムの建設中止を可及的速やかに決断されることを切望する次第である。

以上が余野川ダムに関する私の意見です。できれば住民対話討論会に参加させて頂き、違った見解の方の意見も拝聴して互いに共有できるものを多くし、20年~30年後を見据えて一定の結論を出す努力をしてみたいと考えます。

氏名	中上 隆三	住所	大阪府箕面市	年齢	55
<p>余野川ダムについて</p> <p>私は、止々呂美の住民です。</p> <p>永年余野川の恵みとともに生活してきましたが、同時に河川の氾濫に悩まされてきました。</p> <p>しかし、私をはじめとする地元住民が馴れ親しんできた余野川を、まちの中の川と同じようにコンクリートばかりで河原に降りられない川にはして欲しくありません。</p> <p>そこで、治水のために余野川ダムの建設に協力してきました。</p> <p>現在、国土交通省が検討している河川整備計画を見ると、もっともダムの影響を受ける我々の意見ではなく、河川の氾濫になにも関係しない人たちの考えでダムの建設が左右されようとしています。</p> <p>水が余っていることと、治水のためにダムが必要なことは別の問題であると考えます。</p> <p>日頃の生活に於いて、余野川、猪名川に直接関係のある我々住民の意見を聴いて、一刻も早くダムを完成させていただきたい。</p>					

氏名	酒井 精治	住所	大阪府箕面市	年齢	61
----	-------	----	--------	----	----

余野川ダムについての意見

箕面市止々呂美地区は、我々地元が日常生活の中で農林業の生産の場として、保全・活用してきたことから豊かな自然が残っています。

しかし、過疎化等により止々呂美地区の将来を心配した我々は、生活利便性の向上と地域の活性化など地域課題の解決のために宅地開発を望み、昭和 47 年に余野川ダムの事業区域を含めて、民間開発企業に土地を売却したものであります。

その後、昭和 52 年に余野川ダム事業の計画が公表されましたが、地元では宅地開発ができなくなるのではないかと、当初ダム建設に反対しておりました。

しかしながら、余野川ダム周辺で宅地開発が同時になされること及び治水の国家事業であることから、余野川ダム事業に賛成し、今日まで、用地協力をはじめ工事に関しても出きる限り協力して参りました。

永年、余野川の氾濫により被害を受けてきたことを含め、このような経過を十分に考慮いただき、我々地元の悲願である地域の活性化を実現するため、ぜひとも余野川ダムの早期完成を図っていただきますよう強く要請いたします。



氏名	増田 京子	住所	大阪府箕面市	年齢	
～余野川ダムの必要性に疑問～					
環境・利水・治水の3点から余野川ダム建設の是非を問う					
<p>「水と緑の健康都市」と一体化されて開発が進む「余野川ダム」の双方に疑問を持ち地域で取り組んできました。淀川水系流域委員会が始まり情報収集のために傍聴にも通いましたが、その必要性についての疑問はますます深まるばかりです。その一端を意見書として提出させていただきます。</p>					
<p>環境について</p>					
<p>私は箕面に20数年住み、箕面で子育てをしてきました。子どもたちが「生きること、命の大切さ」を実感するためには、生活していくなかで自分の周りがあるさまざまな生き物達との触れ合いが多く言葉や教材よりも優れていることはいまでもありません。そこから人間も生態系の一部でしかないということをかみくだいて覚えていくのです。人間と共生してきた箕面の山や、田畑はそれを子ども達に伝えてくれました。それだけでなく、私は子どもと探鳥会に参加し、また止々呂美の山歩きなどによってこの山に生息する数多くの生き物や植生の豊かさを見てきました。その豊かさは日本昆虫3大宝庫の一つであることにも現れています。しかしダム開発、宅地開発によってこの止々呂美地域約400haが無機質のものに変わると聞き、環境アセスメントに意見書を書きましたが、どこにでもある生態系で破壊しても影響はないとされ工事が進められました。その後オオタカ営巣が発見されるという環境アセスの杜撰さを示し、またその後の余野川ダム湖予定地の市民環境調査ではニホンシカの餌場でありホタルの珍しい種類が発見されたとも聞きました。さらに余野川ダムそのものは私たちが意見を言える環境アセスはありませんでした。いかに開発ありきの調査でしかなかったかが浮き彫りにされています。生態系の多様性は人が生きていくために重要なものであるという認識をした上で、それでも必要なダムなのでしょうか。その根拠は今だ示されていません。</p>					
<p>利水について</p>					
<p>特定多目的ダム法で建設するためには利水が必要ですが計画策定当初は「都市用水」としか決められていませんでした。つまり利水については必要としている自治体が無かったのです。これは特定多目的ダム法を活用するためとにかく利水をつけておこうとしただけではなかったのでしょうか。</p>					
<p>1983年に大阪府が建設省の「猪名川総合開発事業の建設に関する基本計画」を承認し建設調査が始まりましたがその時、厚生、自治等関係省庁は水配分未確定として承認の回答を保留しています。その後水緑の開発とからめて箕面市が利用という形で日量一万t配分されましたが当時のことを知る職員は押し付けられたと感じているようです。そして豊能、能勢両町に府営水が導入される方向が示されるにあたって箕面市はダム利水から撤退方針を示しました。阪神水道企業団(神戸、尼崎、西宮、芦屋4市)はどのような経緯で配分されたのかわかりませんが、現在これも尼崎工業用水を転用したいと申し出ています。社会情勢の読みの甘さだけでなく初めからこれもダム建設ありきの利水という疑問が拭えません。</p>					

氏名		住所	年齢
<p>治水について</p> <p>私が議会でこのダムの必要性の質疑をすると、必ず 1953 年の洪水など過去の例をだし、箕面でも一人亡くなられた。治水として人命と財産を守るためにダムが必要。と言われ続けてきましたが集水域が小さくこれまでの洪水で、もしこのダムがあったらどれだけの被害が軽減できたのかとの質問には答えられないのです。余野川ダムを建設する分派堰周辺などは国の管轄ですがそれ以外は大阪府の河川となっており、十分な周辺情報が無い中でこれまでの下流被害を持ってダムがいるとしているだけです。1999 年にこの集水域を中心に大雨が降り確かに余野川は濁流となりましたが、たいした被害はでていませんし、もっと下流域でも被害は全くありませんでした。それよりも分派堰より下で雨が集中する可能性もあります。その時はどうするのでしょうか。整備計画案では下流域の被害想定で余野川ダムがあれば約 1 兆 9000 億円の被害が 1 兆 6000 億くらいへと軽減するとありますが本当に分派堰上流の小さな集水域で何年かに一度下流域に影響を及ぼす大雨が降った時に約 3000 億分の軽減があるというのでしょうか。これだけの被害を想定するのはこの集水域だけでなくもっと広範な予測不可能な大雨でしょう。それなら 1 兆 9000 億もの被害がでるような洪水に対してどのようにするのか、ハザードマップなどの対応も含め全体の治水を真剣に考える事が先決ではないのでしょうか。余野川ダム分以外は被害にあっても仕方ありません、防ぎようがありませんというのは通用するものではありません。一庫ダムの治水容量をあげるために余野川ダムに利水を振り分けるという案が示され出しましたが、これも今まで治水、利水で必要と説明してきたことと矛盾する内容です。この案を示すのなら、余野川ダム計画そのものを白紙にもどして再提案すべきではないでしょうか。疑問は募ります。以上</p>			

氏名	前川 謙二	住所	大阪府箕面市	年齢	59
----	-------	----	--------	----	----

意見書

「基礎原案」の余野川ダムの主目的は、「一庫ダムの治水機能強化」による「狭さく部上流の浸水被害軽減」であり、「下流部の浸水被害の軽減」にも役立つとしています。

多田の浸水被害の解決は、長年水害に苦しんできた被災住民の要求である狭さく部の開削です。東多田水害原因の狭さく部を30年間開削しない計画は、納税者の対立、自治体の対立をもたらしかねません。絹延橋上流の無堤区間も整備し、下流安全度に合わせて多田狭さく部の段階的開削をすすめる必要があります。

猪名川下流部を「数千年に一回」という極端な「既往最大規模の洪水」の計画高水を前提とした猪名川整備計画は、当面（30年）淀川・大和川の治水安全度などとバランスのとれた計画高水とすれば、上記の狭さく部の開削が出来ると考えられます。

また、流域の市街化予測率34%は、現在20%の開発であり、更なる市街化を抑制し、保水機能や貯留・浸透機能、雨水利用で流出係数を抑制すれば、猪名川や余野川の治水レベル向上させることができ、下流部の浸水被害の軽減にも役立つものです。これらの総合治水の推進こそ、狭さく部上流も下流部も浸水被害の軽減が可能となる対策です。

さらに、豊かな自然環境を失いダム湖水の悪化問題など余野川ダムによる環境の社会的損失問題は、環境対策事業では復元は不可能で、計り知れない損失です。

涵養林や広葉樹林による治山対策や、国の新しい「特定都市河川浸水被害対策法」、土石災害対策などに重点投資し、洪水を発生させる降雨に対し猪名川全流域から保水・貯留浸透機能を高める総合的な防災治水対策で防災治水の前進をはかる計画を確立し推進することです。

こうした余野川ダム計画の治水目的の代替案と、都市水害軽減対策の確立のためには、情報と資料を公開し、住民参加で検討することがです。これらの事業は、環境と縁を守る防災治水として、今世紀にふさわしい総合政策であり、雇用効果も大きく、地元建設業向けであり、景気対策も期待できるものです。

以上

発言を希望された方

氏名	井澤 昭雄	住所	-	年齢	63
----	-------	----	---	----	----

#### 余野川ダム

私は一庫ダムの下流に住み、バードウォッチングのため度々止々呂美地区を歩き、現状をつぶさに観察してきました。計画され、建設着手前の余野川ダム計画の見直しに際し、意見を申し上げます。

結論：建設を中止し、原状回復を図り、荒廃した流域は市民の森として再生すべきです。

理由：

1：多田地区の浸水被害軽減を図るとされていますが、当時「予測以上の降水量のためダムがオーバーフローし、かつ「一庫ダム」を守るため、水門を開けて放水した」為に被害の増大を招いたと結論つけられたと記憶しております。多田地区の浸水被害は10年以上前の、しかも床上浸水程度の被害であり、一庫ダムの運用改善で以後乗り切っていますので、これが水系の異なる川のダム建設の理由とされることはまさに我田引水でしょう。つまり水害が予想される以上の降水があった場合には、下流の水害被害よりダム自体の保全が優先されるため、「被害予防」は期待できないと考えます。

余談ですが、九州熊本の川辺ダムにしても、「50年100年に一度の大雨に備えたダム建設」がうたい文句になっていますが、そのような大雨に耐えうるダムなど夢物語であり、未曾有の大雨被害を口実にするのは絵空事であり、恐喝・恫喝を通り越して滑稽です。

美味な天然鮎の生息する清流を貯めて、アオコの発生するダム水を飲まされる流域住民にとっては「百害あって一利なし」としかいえない愚行です。

2：「利水容量の振り替えのための貯水施設としての機能」に対しても、当該一庫ダム、箕面川ダム、琵琶湖・淀川などの地区の貯水機能は、ときに渇水が懸念されるにしても、異常気象への対応は余野川ダムの建設で大勢に影響するとは考えられません、また今後大量の工業・農業用水を必要とする状況ではなく、家庭の飲料水はすでに飲用水はペットボトルの天然水に頼る傾向が加速しており、渇水は住民の協力で乗り切って、無駄な投資を削減し、水道コストを軽減することが優先されるべきです。一方今の清流が、ダム貯留によりアオコなどの発生により悪化し、水質を浄化するためのランニングコストの大幅な上昇が懸念されます。

3：下流部の浸水被害軽減については、これまで深刻な浸水被害があったとは聞きません。また起こるとしても、1.で述べたごとく、軽度の被害軽減しか期待し得ないと考えべきです。

氏名		住所		年齢	
今後の調査・検討事項としては					
1. 代替案					
<p>取り付け道路までは出来上がりつつありますので、それ以上のダム建設関連の工事は中止して、早急に用地の利用方法を検討すべきです。中止のまま放置すると産業廃棄物処理などの無法業者の違法投棄が始まります。市民の意見を取り入れた利用案、一番妥当なのは失われた自然を回復し、誰もが利用しやすい「市民の森」的な自然環境の回復が望まれます。</p>					
2. ダムを建設した場合の諸費用の見直しです。既にダム建設費用の見直しとともに、建設に伴う諸費用も見直され検討されるべきです					
1) 今後発生するダム管理経費、なかんずく堆積する砂の浚渫コストが継続的に発生します。					
2) 水道水の浄化システムのランニングコストを現状の清流浄化との対比で検討すべきです。					
<p>多分（当然と言うべきか）ともに圧倒的に高価なものであり利用者に付回されるか、管理自治体の財政を圧迫します。</p>					
3. 利水についての水需要の精査確認					
記述しました。					
4. 土砂移動の連続性確保の方策検討					
出来るのでしょうか？このようなことが。					
<p>これが出来ないために全国の多くのダムが既に機能を失っており、そのようなダムを作り続けていることが問題なのでしょう。逆に河川からの砂れきの流入減少の為海岸の砂浜の後退が目立つとの指摘もあります。ダムを建設しないこと、さらには砂に埋もれたダムの撤去が適正な土砂移動となることも考慮すべきでしょう。</p>					
以下余談					
1. 約30年前ある米国人（博士）と話したとき、米国では河川を流れる水の下面以下に貯められた水は「Dead water」と呼ばれており、ダム建設は否定されていると聞き当時は半信半疑でしたが、昨今日本の「何が何でもダム、道路、公共工事は建設続行」との某独裁的政党、自治体、土建業者にはあきれのを通り越して、日本を滅ぼす亡国の影を感じるのの小生だけでしょうか？					
2. 年間予算の半分を国債（借金）に頼る国の財政状況で、返せない利息が利息を呼び、増税がデフレを加速する悪循環、高齢者の個人資産が標的にされる昨今、しかしこれは一時のこと					
<p>でなく恒常的に脱却できる充てもない事態が懸念されます。</p>					
<p>無駄な経費・箱物行政から国際的な先端分野への思い切った強力投資に振り向ける先見性への対応が望まれます。</p>					

氏名	岡 秀郎	住所	大阪府大阪市	年齢	
<p>淀川水系河川整備計画基礎原案、および淀川水系河川整備計画基礎原案に係る具体的な整備内容シートの記載について下記の通り意見・対案を示し、自然生態系に大きな負荷を与えるダム事業を中止し、総合治水を推進することを強く要請します。</p>					
<p>&lt;意見&gt;</p>					
<p>1．改正河川法はその目的のなかで、従来の治水、利水だけでなく、新たに「河川環境の整備と保全」を掲げている。これは、河川政策において最も強制力が強く、尊重されるべき法制度の改革であり、河川整備計画の審議、策定にあたっては、環境保全についても治水、利水と同様に充分配慮すべきものである。</p>					
<p>1) つまり、余野川ダムの事業地域およびその周辺地域は、国の環境基本計画において「各種制度を活用し、行為規制等により、適正に保全する」と位置づけられている「里地里山地域」あるいはそれ相当の豊かな自然生態系であり、</p>					
<p>2) また里地里山などは、生物多様性条約（日本は1993年締結）にもとづいて策定された「新・生物多様性国家戦略」においても持続可能な保全と活用が提起されている。</p>					
<p>しかしながら、淀川水系河川整備計画基礎原案（以下、基礎原案）の上記内容については、環境保全に関する他の法制度や政策を考慮しないまま記載されているとしか考えられず、環境保全の検討、内容が軽視され、あるいは欠落したものとなっている。</p>					
<p>2．上記ダム事業については、自然を中心としたその生態系を大きく伐開するものであり、上記1．の各環境保全項目に著しく相反する。</p>					
<p>つまり、事業が計画どおり実施された後の自然環境については、まず、現存する里山などは大きく変貌し、山間地の谷底を中心に広大な開放水域が現れる。ダム周辺では、取付道路さらには土取り場、土捨て場などの付帯施設地が散在し、それらは人為的攪乱を受け人工裸地化するとともに、周辺の緑地空間が孤立化、断片化され、自然環境に大きな負荷がかかることは避けられない。</p>					
<p>また、ダム事業地域一帯の優れた自然景観域においてダムが建設された場合、新たな自然景観を創出する代替的な機能も見いだせない。</p>					
<p>3．ダム事業については、流域全体の自然生態系における森林の水循環システムという観点からその是非をみた場合、そのシステムを代替できず、逆にシステムを損なう蓋然性が極めて高い。</p>					
<p>4．ダム事業に関わる事前環境調査が行われ、建設予定地周辺地域には、希少生物が存在していることが分っているが、これらの希少種が持続的に生息できる自然環境を全般的に保全する姿勢がみられない。</p>					
<p>つまり、事前環境調査の手法は、対象事業に対する個別具体的な調査、分析、評価であり、自然環境の資質自体を捉えるものとならならない場合がほとんどで、保全事象に対する影響の回避、軽減などの対策に終始することで事業を正当化している側面が強いと言わざるを得ない。</p>					

氏名		住所		年齢	
<p>&lt; 対案 &gt;</p> <p>1 . 改正河川法の目的の一つである環境を保全するには、自然を著しく改変せず、さらには、事業対象区域以上に面的な広がりをもつ機能系である自然生態系に負荷を与えないことが必要条件である。</p> <p>上記ダム事業が計画されている流域の自然環境および二次的自然環境は、それぞれの生物や生態系が単独あるいは個別に存在するのではなく、流域全体を構成する生物環境や地域の人々の歴史的営みの結果として継承されてきたものであり、上記&lt; 意見 &gt;の通り、これらに大きな負荷を与える各ダム事業は中止するべきである。</p> <p>2 . 特定の希少生物の存在はその生息環境の健全さを表す指標であり、特定種のみを保護対象とする現在の環境影響評価の手法は、流域の広範かつ多様な生物環境を切り捨てる便法とされている。</p> <p>基礎原案には今後の環境調査の実施も記載されているが、生物を保護するには、第一に生息環境全体（農業環境を含む生態系）を保全する視点が重要であり、この意味でもダム事業は回避するべきである。</p> <p>3 . 上記のダム事業の中止を代替するものとして、環境負荷の小さい複数の施策を組み合わせることによって、下記の通り総合治水を強く推進するべきである。ただし、ダムの流域によって整備内容に差は生じる。</p> <p>1 ) 狭窄部上流域において、耕作放棄地や耕作地を中心に土堤を築くなどの手法によって、新たな遊水池・調整池を確保する。</p> <p>2 ) 河川管理者や地域住民が「浸水被害が生じている」と報告している地域において、有効な土地を見出し、新たな遊水池を確保する。</p> <p>3 ) 既存調整池の貯留量の向上を図る。</p> <p>4 ) 既設ダムで、治水容量が少なく、その利水容量を上記ダムに振り替えるとされているダムについては、サーチャージ水位の嵩上げあるいは治水容量の拡大計画をとる。</p> <p>5 ) その他、河道の掘り下げや、浸水地域の住宅等施設対策なども十分に活用する。</p> <p>4 . ダム事業に直接、間接的に関係する周辺樹林地のあり方に関する調査については、環境保全上重要なものである。今後の環境調査においては、周辺樹林地の機能評価調査を行い、「費用対効果」についても検討しなくてはならない。また、機能評価に基づき、森林整備ならびに土砂流出防止の促進に関する具体的な施業方法も検討するべきである。</p>					



氏名	桐野 俊敬	住所	大阪府池田市	年齢	61
<p>『水』が豊かに有ると云うことは、文化であり人類のパワーの源である、と私は常々そう思っています。さらにより高い文化を創造することと、それを維持するには、全て水が有ることから始まると確信しています。学んだ歴史でも4大文明発生地は豊かな水が大きなカギを成したと聞かされました。総じて人類が栄えるため、関西が栄えるためにいかに水が大切なのかよくわかります。</p> <p>たぶん人々は、いつもそこに水が有り、食事も風呂もトイレも、そして花に水をやることも蛇口をひねるだけで、まるで魔法のように無限に水が出るように思っているのではないかとさえ思います。その水が出る過程と、ほんの短い過去を重ねれば、いつも水対策はホントにこれでいいのか、その疑問にぶつかります。</p> <p>夏期になればいつも発生する琵琶湖の湯水騒ぎやダムの水が無くなり湖底のニュース写真を見ると私だけでなく気にとめる人々は、うんざりしていると思います。</p> <p>諺で「備えあれば憂いなし」とあります。私はもっと平たく云えば、危険予知をすることにより災害をなくすることだと思っています。</p> <p>災害が起ってからあの時はと延々と多話を云っても結果が出てからでは、もう遅いのです。湯水で水が出ないことも同じです。</p> <p>余野川ダム新設に付いても、同様な事が考えられます。</p> <p>もし、創らなければ、動物や森林はそのまま残ること大と云えます。</p> <p>しかし、2・3年前だったと思いますが、一庫ダムの湯水が有りました。</p> <p>もしあれから何日も何週間も降雨がなければ我々の暮らしはいかようになっていたか、人々は想像されたでしょうか。</p> <p>地球の温暖化が進んでいる最近、もっとも身近な事として水の確保について考えるべき時が来ていると思います。それは、10年20年のことではなく、100年200年も想像して、いかに人々が、後世の為、北摂地域に次世代の宝物として『水』を残したことが誇れる余野川ダムとして私は作るべきだと思います。</p>					

氏名	-	住所	兵庫県川西市	年齢	41
<p>11月の日経新聞の関西版で、片山鳥取県知事の改革談義が掲載されていた。その中で、鳥取県主体のダム事業について、片山知事が、県の担当部長に、いくらでできるのか正直に言え、今言えば、過去の過ちは問わないが、あとでわかればただじゃおかないと迫ると、担当部長は、河川改修による治水の見積を何十億もかさ上げして、ダム建設より高くなるとしてきたことを白状したと紹介されている。</p> <p>余野ダムを建設されようとしている国土交通省の方。既に用地買収も終わっていて、今更中止というのは、間違いを認めないお役人の立場としては、さぞつらいことでしょうが、ここは、もっと、大きい公僕の立場で考えて下さい。あなた方は、我々の税金を預かって、使う立ち場にあるのです。本当に、我々住民のためになるものを、一番効率よく、低コストで作ろうとしているのか。是非、そのところを明らかにして下さい。</p> <p>また、その比較データを公開し、専門家による検討を加えていただき、その選考過程を公開してください。それによって、住民も判断できるというものです。</p>					

氏名	岳野 與一	住所	大阪府箕面市	年齢	56
<p>私は「余野川ダム」と地方自治体のあり方、開発行政と住民の暮らしについて意見を述べます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、猪名川の河川整備の充実をはかり川西市、兵庫県などと協議し総合治水対策で多田地区の浸水被害を軽減することこそ求められている。</li> <li>2、銀橋狭窄を開削について、「開削しても下流部の浸水被害はない」という専門家の意見に耳を傾けて、多田地区の浸水被害を解消すること。</li> <li>3、昭和 28 年の洪水から 50 年、河川工事の進行で「洪水氾濫は確実に減少してきた」と述べられている。</li> <li>4、箕面市においては利水からは離脱。大阪府が中心になって進めている「水と緑の健康都市計画」と一体のものとして進められているが箕面市は市内に計画中の「小野原の区画整理事業」など宅地開発の進行があり、公共交通として電車がいない地域での計画に成功の見込みが疑問視され、市民からは建設計画に批判があるのもです。</li> <li>5、特に、市民は地方自治体、政府が国民の公共料金、税金の負担を増やしての計画には賛成しかねます。</li> <li>6、森林保全や河川工事事業を環境、防災治水の総合対策として地元建設業などの参加で雇用対策としても実施することが住民参加で効果的ではないでしょうか。</li> </ol>					

氏名	中村 賢一郎	住所	兵庫県西宮市	年齢	
<p>意見要旨 当初の利水目的は既に消滅している。</p> <p>当初の利水計画</p> <p>阪神水道 1.042m<sup>3</sup>/s (90,000m<sup>3</sup>/日) 昨年8月全面撤退表明</p> <p>箕面市 0.118m<sup>3</sup>/s (10,000m<sup>3</sup>/日) 一昨年大阪府営水道に乗換表明</p> <p>当初の利水目的は消滅している</p> <p>この事態を予想してか、昨年5月16日近畿地方整備局は「見直し案」提示            内容は規模を縮小して利水専用ダムにする。そして、渇水傾向の顕著な一庫ダムの利水容量の一部を余野川ダムに振替えるというもの。            規模縮小案中振替え量を、約0.4m<sup>3</sup>/sとしているが、これは、池田市と豊能町以外では有り得ないと考えられる。            しかし、現実には大阪府営水道が鋭意進出中であり、府営水の大幅な水余り状態からして、この両市町の水需要を全量カバーすることも十分可能である。</p> <p><u>我々の提案</u></p> <p>財政難のこの時期、新たな利水専用ダムを造るより、有限の資源を有効活用し、大阪府営水道との関係を検討し直し、最小の投資で当初の目的を達成できるよう考えるべきである。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>					

氏名	夏秋 優	住所	兵庫県尼崎市	年齢	44
<p data-bbox="217 297 1401 421">余野川ダムの建設に関しては財政問題や水需要、自然環境への影響など、様々な視点から反対意見が出ていると思われるが、私の立場からはあえて昆虫類への影響、という観点からのみ、意見を述べさせて頂きたい。</p> <p data-bbox="217 472 1401 1200">箕面市止々呂美地区はクヌギやコナラを主体とした雑木林が多く、大阪府内でも有数のすぐれた里山的自然環境を保持した地域である。「里山」は近年、特に注目されている自然環境の在り方であり、多様な生物の生息を可能にすることが知られている。蝶類については現在までに80種類が当地で記録されており、大阪府全体の種類数（約100種）の実に8割が止々呂美地区に生息していることになる。中でも、大阪府内でも生息環境の限られる珍種であるスジボソヤマキチョウ、キマダラモドキ、クロヒカゲモドキ、ウラジロミドリシジミなどが当地で見られること、そして日本の国蝶であり里山的自然環境を代表するオオムラサキが多産していたことは特筆すべきである。しかし残念ながら、1993年頃から始まった造成工事や雑木林の伐採によってこれらの蝶は個体数が激減しており、このままダムが建設されると絶滅する可能性が高い。昆虫の生息には広大な自然環境を必要としており、「種」の存続のためには周辺地域との遺伝子交流が良好に維持される必要がある。しかし近年は北摂の各地で宅地造成や道路拡張工事などが行われており、大変便利になっている反面、土地自体が乾燥化しており、そこに生息する昆虫類に大きな打撃を与えている。これまでの止々呂美地区は、北摂地方の中でも多様な昆虫類の生息できる環境が保持されており、「種」を維持するための重要な地域になっていたが、ここが破壊されて環境が大きく変化することによって周辺地域の昆虫にも多大な影響が出るものと推察される。さらに、自然環境の変化は昆虫類のみならず、各種の動物や植物（農作物を含む）にも悪影響を及ぼすため、北摂地方に居住する人間や地場作物にも影響を与える可能性がある。</p> <p data-bbox="217 1252 1401 1375">つまり、多様な昆虫類の生息できる環境を守るとは、人間にとっても良好な生活環境を守ることにつながるのである。以上のような観点から、自然環境への影響の特に大きいダム建設は行うべきではないと考えている。</p>					

氏名	西川 隆夫	住所	大阪府豊能郡豊能町	年齢	
----	-------	----	-----------	----	--

北摂は清和源氏発祥の地

余野川ダムと関連開発は近畿のへそ・道州制実現の一里塚

平安時代の中期（970年）に源満仲が、多田院を開き九匹の龍を退治したとの伝説がある。今ように言うなら、治山治水に成果を治め「清和源氏発祥の地」の基礎を築いたことの話である。

近畿猪名川は、全国的に見ても流域面積に対する「土地開発が最も進んだ河川の一つ」である。

古今東西を問わず「治山治水と環境の基盤づくり」は、国家（行政）が担うべき最も基本的な任務であり、異論を挟む余地はない。ところが、猪名川流域にあっては、明治維新後の廃藩置県（1871年）により、旧攝津の国が、猪名川を境に大阪府と兵庫県に分断されてしまった結果、130年余に亘って分割統治がおこなわれ、両府県の間「行政の壁」を創出してしまったのである。

特に、都市計画（道路・流域下水）の不整合については、流域住民の不信を買う事象が随所にある。

「地方分権・地方の時代」等が叫ばれて久しいが、現行の府県制度の下では、行政と情報の分断が恒常化し、如何ともし難い側面があった。

その意味において、今回の「住民対話討論会」は、府県の壁を越えた対話討論の機会であり、その成果をおおいに期待したいと思う。

余野川ダムの付加価値

河川整備計画基礎原案にある「余野川ダム計画について」の対応策は、ハード面からのアプローチとして十分に理解できる。特に「狭窄部上流多田地区の浸水被害の早期軽減」や「一庫ダムの利水容量の振り替え」は、国家の視野とアイデアからの提案であり、おおいに評価し、その実現を期待したいと思う。

しかし、余野川ダムについては、単にハード面からの問題に止まらず、ダム本体の建設と同時に進行する「水と縁の健康都市や第2名神・新御堂筋線箕面トンネル」等の関連事業の成否に係わる「付加価値（ソフト面の効果）」に重要な要素があることを忘れてはならないのである。

以下、幾つかを列挙し、その理由を述べる。

- 1、近畿のど真ん中（へそ）に位置する、箕面市止々呂美地区での「水と縁の健康都市・余野川ダム・新御堂筋線北進の三位一体（以下・三位一体事業と言う）」は、四半世紀に亘って討議されてきた課題であり、周辺や背後地にとっても待望久しい事業である。
- 2、三位一体事業に第2名神が加わったことによって「近畿の中央」の意義は不動のものとなった。
- 3、三位一体事業は摂津・丹波連携のゲートの位置に当り、広域連携の拠点をつくることになる。
- 4、南海地震・東南海地震対策の要に位置する「防災備蓄基地（ヘリポート付）」の誘致を提案している。（京都、大阪、神戸の3大都市圏に対して、ほぼ等距離の位置に当る。）
- 5、北陸新幹線小浜ルートに代わる「北大阪急行の北進」と「パーク・アンド・ライド」の拠点づくりを目指すことに繋がる。

道州制推進と市町村合併

余野川ダムは、近畿のへそに位置し、21世紀の課題となる「道州制推進や府県の区域を超えた市町村合併等」新時代の幕開けに繋がる幾多の要素がある。

氏名	西山 昌文	住所	大阪府池田市	年齢	
余野川ダムの有効利用に就いて					
					H16-1-5
<p>既にダム予算の大半を使っているのではと思われますが間に合うのであれば予定貯水量の 1/2 ~ 1/5 に下げ定量排水土砂運搬等のダム完成後の費用を残し他の対策として流域に(休耕田、休耕畑を利用出来れば最良であるが) 20~30ヶ所の大規模?水溜りを造り水鳥、野鳥、淡水魚の宝庫にしてはと思いますが、大阪近郊で自然が残る貴重な「川」にしたいと考えます。</p>					
<p>提案</p> <p>水溜り 池 川添いにはドングリ、芦等を植え溜り出入口には瀬や淵を造り、鮎、鯉、フナ、ナマズ、ドジョウ、サワガニ、カワニナ、ジャコ等の繁殖を助ける</p> <p>ドングリにはオシドリの飛来を助けます</p> <p>現在も猪名川 - 川西市多田大橋上流には 50 羽</p> <p>箕面川 - 上流オヶ原池付近で確認</p> <p>余野川 - 久安寺上流西山口の奥で確認</p> <p>(鳥取県日野町 オシドリ 700 羽 - ボランティア 10 名が努力</p> <p>兵庫県豊岡 コウノトリ 1 羽 - 県が努力)</p>					
<p>余野川は伊丹市の昆陽他、猪名川と野鳥の集まりやすい場所かと思えます</p>					
<p>又余野川ダム、川の不法投棄防止保護の自然ボランティアメンバーの結成を提案します。</p> <p>メンバー意識高揚の為に目印用帽子等の準備をされてはと思いますが</p>					

氏名	和田 淳二	住所	大阪府箕面市	年齢	73
<p>&lt;余野川ダムについての意見書&gt;</p> <p style="text-align: right;">箕面市 和田淳二 箕面市民 73才</p> <p style="text-align: center;">余野川ダムは箕面市民に何をもたらすか？</p> <p>1．利水目的の消失</p> <p>余野川ダムは利水、治水の多目的ダムとして着工したが、その後の水需要の激減等により、利水目的はカットされた。ダムの地元である箕面市は、早々にコスト等の理由で同ダムからの取水計画を大阪府営水道からへと変更した。</p> <p>余野川ダム予定地に隣接して計画されている「水と縁の健康都市」への水の供給も同様に変更した。</p> <p>周辺都市西宮、尼崎等においても当初は直接或いは間接に取水の一部を余野川ダムに依存する計画であったが、その後の水需要の減少から実質的には同ダムからの取水を返上する形となっている。</p> <p>2．治水の対象は箕面ではない</p> <p>そうすると余野川ダムは治水目的のみのダムということになるが、治水対象エリアはわが箕面ではなく、川西市多田地区としている。</p> <p>基礎原案によれば、余野川ダムの主目的は（猪名川）狭窄部上流多田地区の浸水被害の軽減であり、それには一庫ダムの治水機能強化が必要であり...余野川ダムへの「利水容量の一部振り替え」を行うとしている。言い換えれば、余野川ダムの治水機能とは、一庫ダムの利水容量を一部肩替わりして、一庫ダムの貯水容量に余力を持たせ、万一の場合に一庫ダムの治水機能を強化することであり、かつそれのみである。</p> <p>箕面市民からすれば、数百億円を費やし、広大な里山を破壊して建設する余野川ダムの機能が、たかだかそれだけとは空しい限りである。そればかりではない。机上の三段論法により利水容量の振替えという手法で、一庫ダムの治水機能強化をはかるというのは一応つじつまが合うかも知れない。しかし現実問題としては、例えば流域委員会意見書が言うように、距離が離れている上に集水面積も異なるダム間で、たとえ利水容量が同じであっても、降雨の状況によっては、同等の利水機能となるかどうか不明確なのである。</p> <p>3．余野川ダム抜きで狭窄部上流多田地区の浸水被害の軽減が可能か？</p> <p>多田地区及び狭窄部下流の堤防を整備強化したうえで狭窄部を開削すればよい。そうしても洪水時に多少の溢水、浸水被害は免れないかも知れないが、それらに対して相応の対策を講ずればこの問題は解決するとの専門家の意見がある。多大のコストと取り返し不可能な環境破壊を伴う余野川ダムにより、浸水被害の軽減を計るというまえに、まずこの方法などを試みるべきでないか</p>					



氏名		住所		年齢	
<p>4 . 箕面市民が失うもの、得るもの</p> <p>私を含め多数の箕面市民は最近迄余野川ダムは箕面の治水に必要なものと理解していた。ある府会議員もその様に説明していた。そこで、珍しい小鳥がさえずり、炭焼き案があり、鹿の足跡が残る建設予定地である里山を歩きながらも、ずばり“余野川ダムNO”と言いたいものが心の片隅にあった。</p> <p>ところが、先にのべたように、余野川ダムの主目的は、川西市多田地区の一部のみの治水に関わるものである事が分かった今では、長年にわたって形成され、全国でも数少ない里山、里川と引き換えに殆ど無意味なダムを建設することは不条理であると考えます。</p> <p>余野川ダムは多田地区の浸水被害を軽減する為の唯一無二の方法ではない。むしろ狭窄部開削等の方法に劣後する可能性が大きいのだ。</p> <p>余野川ダム建設により箕面市民が失うものは、かけがえのない広大な里山であり、得るものは何も無い。</p> <p style="text-align: center;">速やかに余野川ダム建設の中止を決定すべきである。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>					

意見書のみの方

氏名	今枝 公子	住所	大阪府箕面市	年齢	72
余野川ダムを考える		今枝公子（72才）			
<p>国を治める者はまず水を治めよと言われたように、水問題は、その土地に住む者にとり生活にかかわる大切なことである事は誰でも周知している。</p> <p>余野川のダム建設計画がいつ頃から建てられたかは詳しくは知らないが資料によると昭和 58 年に建設採択されたとある。</p> <p>その時以来どのようなことが討議されてきたかを淀川水系河川整備計画関連資料と淀川水系流域委員会資料を見ればわかるのでしようがその概要と結論を簡単に纏めた資料があれば読んでみたい。</p> <p>（資料をいただけますか。お願いします。） そこにきっと問題点が抽出されているのでそれについて住民や箕面市民のかんがえを述べればよいと思う。</p> <p>それらのことから、その一つ・一つを現状と照らして何が必要かを考えたらよいのだと思う。</p> <p>今、止止呂美地区の農村は人口も減少し、地場産業の将来像もはっきりしない。</p> <p>水とみどりの健康都市づくりが途中で計画変更となった今、これに代わる計画を何にするかを、先ず地元の方々と十分に話し合いをして、その計画に合ったダムの再設計をしてほしい。</p> <p>ダムの作り方もいろいろあるはず、必ず現状をふまえた新たなビジョンが浮かぶと思う。</p> <p>沢山の山の木が伐採された。トンネルも掘られた。これをゼロに戻せと言うのは、きびしいしそれは意見ではない。でも、ここから、この現状を、何とかして有利に利用する手だては無いかを検討の方が前向きな考え方と思う。難しいかもしれないが、専門の方々の知恵をお借りして淀川水系全体を見ながらあるべきダムが計画されることを希望する。</p> <p>以前、ダム周辺を考えるワークショップに参加したときも、様々な意見が出された。今度はもっと真剣に現状をふまえたプランを出す必要がある。</p> <p>あのと時のプランも是非再検討して、机上の空論に終わらないように活用して頂きたい。</p> <p>私は、土地の産品を作ること、それを目玉に観光を考えると、ダムがあるのはいいなあと、素人考えをしております。</p> <p>今後の調査・検討についても、非常に関心がありますが、発言するだけの知識がありませんので傍聴させていただきたい。</p>					
箕面市					

氏名	城本 暁	住所	三重県上野市	年齢	45
----	------	----	--------	----	----

ご案内をいただきましたが、会場が遠く当日は出席できませんので、発言希望者しか意見提出できないということなら、採用されなくても結構です。

もし取り上げていただけるのであれば、猪名川流域に関する詳細な知識を持ち合わせていませんけれども、余野川ダムは浸水被害の軽減効果があるとのことですので、過去に木津川の氾濫による洪水被害があった地域に居住する一住民として、ダム建設推進の立場から次のとおり意見を提出します。

(国土交通省近畿地方整備局に対する意見)

・淀川水系流域委員会の提言は、次のような限界があることを踏まえ、あくまでも参考にとすることにとどめ、国土交通省として提言に振り回されることなく、流域住民の生命と財産を守るというその使命に基づき、「主体的に」河川整備のあり方を確立されたい。「洪水被害に遭う可能性のある地域住民」と「そうした地域に居住せず直接の利害関係も有しない住民団体のメンバー」を明確に区分し、国土交通省としては、あくまでも前者の側に立ってその生命と財産を守ることを最優先とし、そのために必要なダムは着実に整備を進めていただくようお願いする。

#### 提言の限界

委員の選定過程に問題がある。関西において環境関係である程度名前を知られた学者をリストアップし、それに一般公募の委員を追加したものだろうが、その選定過程が不明である。最初から「河川整備」でなく「河川環境」だけを意識した委員選定であったように思われる。

直接洪水被害を受けることもないような委員が、ダムは悪であるという思い込みをもって特定の自然観に基づき、作成したものではないか。

流域住民に意見を聴くこともなく、一方的にまとめ上げられたものである。今回のように流域住民の意見を聴くということは評価できるが、まず見解の分かれる「ダムの見直し」については、提言に書かれた内容を一旦白紙に戻すべきである。

(淀川水系流域委員会の提言 030117 版に対する意見)

#### 全体に対する意見

- 1 計画・工事中のダムについて、建設する場合の洪水対応能力と建設せずに他の代替手段を講じた場合の洪水対応能力を明らかにし、洪水被害に遭う可能性のある住民をはじめ一般に公表されたい。(例・ダム建設の場合は「百年の1度の洪水に対応」、「建設しない場合は五十年に1度の洪水に対応」といったこと。ちなみにイギリスのテムズ川では千年に1度の洪水を想定した対策、アメリカのミシシッピ川では五百年に1度の洪水を想定した対策が行われているとのことである。)
- 2 「新たな河川整備をめざして」というタイトルであるにもかかわらず、委員の中に洪水防御の専門家がわずか一人という偏った委員構成であることを踏まえ、提言の前文において、この提言では洪水対策に関して十分な検討が行われなかった可能性があることを明示されたい。

氏名		住所		年齢	
			<p>3 提言全体にわたり、「住民団体・地域組織などを含む住民」というように住民団体と住民を同一視した記述となっているが、住民団体の多くは環境絶対重視、洪水被害に遭う可能性のある流域住民は治水重視ということで明らかに利害が対立するものである（少なくとも優先順位の認識が根本的に異なる）ので、住民団体と流域住民は明確に区分して記述されたい。住民団体を流域住民の代表と捉えるのはとんでもない錯覚である。流域住民には、住民団体と全く異なる考えを持つ人も多いことを十分認識していただきたい。</p> <p>4 そもそも住民団体は、洪水被害などその土地固有の直接の利害を持たないのがほとんどであることから、一般論として地球環境に貢献する活動を行うのに行政と連携することを記述するのは大いに賛成するが、個別のダムなどの治水対策事業にまで拒否権を持つと記述するのは問題である。住民団体とはおそらくNPOのことを想定されているものと思われるが、NPOは無数にあり、そのすべての合意を得ることが必要となれば、ほとんどの事業は実施不可能になる。仮にNPOの意見を聴くことがあっても、洪水被害に遭う住民の立場も重視し総合的に考えることができるNPO（情報公開のもとで大多数の人の合意により策定された客観的な基準を満たすもの）に限定すべきである。自然環境が絶対で人間が住むこと自体が悪と考えるディープエコロジーの思想をもったNPOなど、偏った住民団体まで拒否権を持つようなことは絶対に避けていただきたい。</p>		